

平泉藤原氏の時代、当地域は、その一門である樋爪氏の支配下にあった。樋爪の苗字は居住地の地名に拠ったもので、「比爪」あるいは「肥爪」・「火爪」とも書き、いずれも後世の「日詰」と同訓である。樋爪館を本拠とし、志波郡の西部を領して権威があったようである。

—「紫波町史(第1巻)」1972 紫波町発行—

◎ 本年度最後の樋爪館遺跡めぐり・・・

11月4日に行われた本年度最後の遺跡めぐりは18名の参加でした。特に今回は五郎沼薬師神社で藤原恒久さんから、島の堂観音で佐藤観悦さんから、色々お話を伺うことができました。盛岡や花巻の方の参加もあり会員の勉強にもなりました。説明してくださった、お二人に感謝申し上げます。



《《《 12～1月行事予定のお知らせ 》》》

12月 2日 (日曜日)	第9回定例講演会	午後2時から午後4時まで 赤石公民館 発表者：盛岡大学教授 熊谷常正 氏 テーマ：樋爪館遺跡について
1月 16日 (水曜日)	第37回月例懇話会	午後7時から午後9時まで 赤石公民館 発表者：平井和夫 テーマ：古代の道(二)

—?—?—?—?—?— 樋爪氏 / 樋爪館 —?—?—?—?—?—

Part 7

大莊厳寺は、薬師堂の附属寺と言い伝えられ、いまの薬師神社の近くにあったと考えられています。俊衡が、頼朝に安堵されたあと、蓮阿(れんあ)と名乗り大莊厳寺(だいしょうごんじ)に居住したという説もあります。その後は、斯波氏によって保護されたと伝えられています。

斯波氏が南部氏に滅ばされた以後、南部藩では、盛岡城下を整備する際、盛岡の守りとするために各地の主要な寺院を強制的に移転させました。大莊厳寺もその一つですが、明治の神仏分離令で廃寺となっています。

現在の沼の北端には、石碑に刻まれたものとしては県内最古の不動明王絵像碑(県指定文化財)や、樋爪五郎季衡の墓と伝えられる石碑(板碑)などが並んでいます。

(7) 五郎沼の伝説

五郎沼には、「夜泣き石伝説」というものが

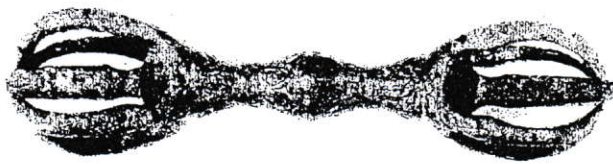
伝えられています。沼の北端から100ほど進んだ東側の土手に大きな石が立っています。地上に出ている部分だけでも2m以上、さらに数m土中に埋まっているといわれますが、それにちなんだお話です。

「造った当初、五郎沼はよく決壊しました。村人は水神の怒りを鎮めるために人柱を立てることになり、選ばれた農家の娘が土手に生き埋めにされました。巨大な石は、その供養として立てられたのです。おかげで土手の決壊はなくなりましたが、不思議なことが起こり始めました。夜に石の近くを通ると、シクシクという悲しげな娘の泣き声が聞こえるのですが、振り返っても誰もいません。こういうことが何度も起き、いつしか『夜泣き石』と呼ばれるようになりました。のちに、娘の遺体は大莊厳寺に移され、手厚く葬られました。(次号につづく)

五 鈷 杵 (ごこしよ)

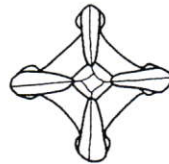
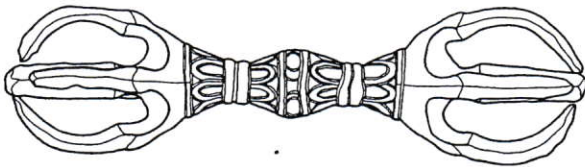
この五鈷杵は、前号の蓮華形磬と同じ柱穴から一緒に出土しました。鑄造製で長さ12cmと小型です。現状は鍍金が認められませんが、当初は鍍金が施されていたものであろうとされています。

金剛杵は煩惱を打ち砕き、菩提心を起こすための法具ですが、古代インドの武器に由来し、杵の両端に刃が1本だけあるのを独鈷杵、その両側に湾曲した刃を2本もつのを三鈷杵、四本もつのを五鈷杵といいます。



五鈷杵・磬出土状況

五鈷杵



比爪館跡 調査説明資料(第8次~10次) 1990紫波町教育委員会 (P7・17写真, P16実測図)

赤石地区ひづめ館懇話会 会 員 募 集 中

会費 年額 1,000 円
主旨に賛同する方、どなたでも歓迎
申込は赤石公民館内の事務局まで。
019-676-3999

ボランティアガイド

樋爪館遺跡の道案内人

JR日詰駅前 宮澤賢治の歌碑前 スタート
ご相談に応じます。ご近所お友達誘い合っ
て、事前にお問い合わせください。
090-3125-3776 (高橋)

👉 樋爪館関連資料集第2号が完成しました !!

平成23年1月に発行した会員発表資料集に続く第2号(A4判98頁)が完成しました。内容は平成22年度月例会で会員が発表した資料「覺王寺と大日堂」「陣が岡の28万騎」「南日詰遺跡の発掘調査」「山道・海道と北上川」など23件です。

紫波町図書館や紫波町内の地区公民館そして県立図書館等閲覧できます。非売品ですが、入手を希望される方は、下記に詳細をお問い合わせください。

電話 019-676-3999 (赤石公民館内ひづめ館懇話会事務局)